

上砂災害を減らすために
高河市長 生日中三年 小河 稟
今、日本では地球温暖化によつて台風の大
型化や局地的な大雨が増加傾向にあり、災害
の規模も大きくなつていきます。私が住む地域
でも過去に台風による洪水災害の被害を経験
したことがあります。私は被災した経験は
ありません。ですが豪雨や雷、強風などは数
多くあります。夏から秋にかけて台風が発生
し、多くの被害をもたらすこともあります。
私が中学二年生の時に、台風により大谷川が
堤防決壊水位まで上がったとき、次の日もま
だ水が引いてないのを見て、もし河川が氾濫
したら命の危険や大きな被害になつたのでは
と恐怖を感じたことを今でも覚えています。
最近では、線状降水帯による大雨で土砂災
害や河川の氾濫、住宅の浸水など多くの
ニュースを目にします。また、その影響によ
り野菜の価格が高騰したり、私たちの生活に
も大きな影響を及ぼしています。自然災害は

大切な家族の命や財産を失ってしまう可能性
があります。近年の一年間で土砂災害が発生
した件数は、七百九十五件もの災害が発生し
ており直近十年平均においても三百六十六件
も上回る件数が発生しており、いつ身近で起
こつてもおかしくない状態にあります。自然
災害の甚大化や発生件数の増加は、地球温暖
化が最も関係あるものだと私は考えます。
私は、地球温暖化について学校で何度も学
習したことがあります。私たちの生活をより
豊かにするために、自動車や家電はなくて
はならないものです。しかし、ガソリンで走
る車や、電気の使いすぎは地球温暖化の原因
である二酸化炭素をはじめとした温室効果ガ
スが発生します。地球温暖化が進むことによ
り共存する動物達も生活環境を追われ絶滅の
危機に陥ることもあります。私は、この世の
中で生きていく全ての生き物、人間が安心し
て暮らしていけるように二つのことを考えま
した。

まず一つめは、もし方が一災害が起きた時の行動について家族と話し合っておくことで、そうすることによって、災害について考え、再確認することができます。また、私は学校にいる時間の方が長いので、登下校における避難行動や避難訓練や環境問題に関する授業を通じて、自分の身を守る方法を身につけることで、二つ目は温室効果ガスを減らすために考えなければなりません。日本の異常気象の原因は地球温暖化によるものと言われています。一世代あたりの二酸化炭素排出量を調べたところ全体の約十五パーセントが家庭から排出されていると言われています。このままでは約三十年後には今よりも地球環境が悪化し台風の大規模化や局地的な豪雨、竜巻などの災害が増えると言われています。これを防ぐためには今多くのメディアに取り上げられている企業が持続的に発展していくための持続可能な開発目標「SDGs」の取り組みや宮崎にお

いてはゼロカーボンニュートラルの取り組みなど環境への取り組みが考えられています。私たちにもできることは、ゴミの分別や不要な電気を切る、環境保全について学ぶことなど数多くあります。一つ一つの目標を達成していくことで地球環境、私の身の回りの生活環境を良くしていくことができると思っています。私は、近年の上砂災害を減らすためにできることを考え、再度調べた結果、地球温暖化が進んでいると改めて実感しました。そしてこの世界を変えられるのは今生きる人たちが危機的な状況であること、次の世代の人たちへとバトンをを繋いでいかなければならない責任があることを理解しなければなりません。三十年後の世界はどうなっているのか私たちが自身の行動にかかっていると思います。私はいから、もつと環境保全について学び自分にできることを見つけ出して、少しでも地球温暖化を抑制、改善できるように変えていきたいです。